

事務局だより

例年になく厳しい暑さが続いていた夏ですが、ここに来てその暑さも一段落のようです。会員の皆様は暑さ負けせず元気にお過ごしでしょうか？

お空の状態は、Eスポンズンがそろそろ終わる頃となり、国内交信は、HF帯では通常の電離層反射によるものへ、VHF帯では直接波によるもの中心に戻りつつあるようです。また、DXに関しては、相変わらず太陽活動が低調な時期ですから、思うように楽しめない状況です。

さて、今年度も早いもので事務局便りを発行する時期となりました。今回も例年と同様のパターンの事務局だよりで、当クラブの今年度のこれまでの活動の状況と今後の予定を中心にお知らせ致します。いささかありきたりの感は否めませんが一通り目を通して頂ければ幸いです。

平成30年度 1月～8月の活動報告

期 日	事 業 名	会 場
H30. 1. 11 (木)	平成30年度総会	中田農村環境改善センター
H30. 2. 5 (月)	オンエアミーティング	—————
H30. 3. 5 (月)	定 例 会	中田農村環境改善センター
H30. 4. 5 (木)	定 例 会	〃
H30. 4. 14 (土)	オンエアミーティング	—————
H30. 5. 5 (土)	定 例 会 フォックスハンティング実行委員会	中田農村環境改善センター
H30. 5. 27 (日)	第46回モービルフォックスハンティング	宝江ふれあいセンター
H30. 6. 5 (火)	オンエアミーティング	—————
H30. 6. 10 (日)	登米市総合防災訓練参加 (非常通信訓練実施)	登米市消防防災センター
H30. 7. 5 (木)	定 例 会	中田農村環境改善センター
H30. 8. 5 (日)	移動運用 (移動定例会)	迫町兵糧山公園
H30. 8. 18 (土)	オンエアミーティング	—————
H30. 8. 22 (月)	事務局だより発行	—————

● 定例会

ここ数年、参加者が非常に少ない状況が続いていますが、今年度も同様で、毎回3名前後の参加者しかなく、定例会の体をなしていないといってもいいような状態です。

メンバーそれぞれの都合があつてのことと考えると、改善の手立ても思いつかず、今後の活動に不安がよぎります。

● 技術講習会は流会

3月5日と4月5日は例年通り技術講習会を開催する予定としていましたが、内容を決めることができず実施できませんでした。

毎年「どういことをやるか」ということに関して、苦慮しつつもなんとか続けてきたわけですが、今年度は事務局や役員の皆さんからも現状にマッチした具体的提案が出ず、会員の皆さんからも要望等がなかったため実施困難という事態になってしまいました。

アマチュア無線は非常に多岐にわたるハードとソフトがあり、楽しみ方も各人各様ですから、技術講習会でやれるものは山ほどあるとよいと思いますが、現会員のスキルや嗜好、予算などを総合的に考慮すると、実際に出来ることを見つけるのはかなり難しいというのが実情です。

来年度は、会員の皆さんから積極的に意見・要望等が出て、実施できることを期待いたします。

● 第46回フォックスハンティング … 17チーム/23名が参加 … 5月27日

今年度は好天となり絶好のフォックスハンティング日和となりました。

エントリーは17チーム・23名で、前年度より1チーム増、ハンターの人数は2名増でした。地元宮城県内からの参加は、当クラブから4チーム・6名、クラブ員以外の県内チームの参加は残念ながらありませんでした。大部分が1エリアからの参加であり、東北では当クラブチームを除けば岩手から1チーム・1名のみの参加という状況でした。

FOXについては、1、2ともに2名体制とし計4名で担当しましたが、その内3名はクラブ員以外の局長さんでした。そのお陰でクラブからのエントリーを4チームとすることができとても助かりました。

昨年は例年になく難易度の高い競技だったのですが、今年はそれをしのぐ厳しい戦いとなりました。とにかく第2FOXの電波が非常に弱く、ほとんどのハンターが、通常使用している方探では電波が捉えられないか、捉えても方向が特定できない状況でした。そういうことで、第2FOXの探査を諦めたハンターもいらっしゃったようです。このようなこともありますから、ハンターは八木アンテナや受信ブースターなどの設備も備えておくべきかもしれません。教訓として今後に活かして頂ければと思います。また、第1FOXについては、前年度に第2FOXがいたところと全く同じ場所でした。このことが結果に影響を与えたという様子は見受けられませんでした。いずれにしても前例のないことで、意外性のある出来事でした。



開会式 選手宣誓



閉会式後 記念写真撮影

競技結果は下表のとおりです。(競技開始時刻は10:15)

順位	チームメンバー	FOX1 発見時刻	FOX2 発見時刻	所要時間 (分)
1	JH1FFV, 茂泉, 岸塚	10:48	11:21	66
2	JS1GVY	10:44	11:42	87
3	JA1OQD	10:50	11:43	88
4	JH1MTG	10:51	12:02	107
5	JA1HOW	10:46	12:02	107
6	JA7IUX, JF7CYL	10:36	12:03	108
7	JA7KTX, JO7LYQ	11:00	—	45
8	JG1MVL	11:00	—	45
9	JA7THE, JP1AWP	11:02	—	47
10	JG1TRY	11:20	—	65
11	JH1SFE	12:10	—	115
—	JL1CML	—	—	—
—	JP7IJQ	—	—	—
—	JH7RVR	—	—	—
—	JJ7HFP, JI7RUF	—	—	—
—	JF1SQS	—	—	—
—	JL1BLS	—	—	—
—	—	—	—	—

* 実際には秒単位まで記録をとり順位を決定しています。

* ピンク色の欄は当クラブメンバーです。

※ フォックスハンティングの詳細(FOXの場所やスナップ写真など)は当クラブのWebページに掲載していますので併せてご覧下さい。(URL=<http://www.jarl.com/tome/>)

●登米市総合防災訓練 … 8名が参加 … 6月10日



一昨年、昨年に引き続き、今年度も登米市から総合防災訓練参加要請があり、非常通信訓練を行いました。今回で通算6回目の訓練参加となりました。内容は一昨年から変わっておらず、3年連続同様となっています。(登米市からシナリオ等は一切提示されず、訓練の中身は全てクラブに一任された状況)

参加局は、本部要員としてJA7KTX、JH7FBX、JL7OVKの3名、訓練重点地域(石越町)への移動局としてJA7IUXとJJ7HFP、

さらに各地からの情報提供局としてJA7LNとJP7APPおよびJL7JAS(及川OM、非クラブ員)の3名、以上合わせて8名の方々にご協力をいただきました。

課題として、本部での視察者・見学者への対応の仕方とその要員確保が上げられます。次回の訓練に際して、その点が改善されれば一段と有意義な訓練参加になると思われました。

今回、都合により参加できなかった会員の皆さんにつきましては、次の機会に是非参加していただきますようお願い致します。

● 移動運用 …参加は6名 … 8月5日

今年、初めての場所となる迫町の兵糧山公園（運用場所の標高は約23m）での運用を行いました。運用者はJA7KTX、JH7RVR、JR7SWL、JA7IUXの計4局でした。さらにJL7CRL大内OM（岩出山在住）が、用事の途中に様子を見がてら激励に立ち寄ってくれました。また、クラブ員ではありませんが、JA7LN 大畑顧問さんのスーパーローカルのJO7ILE 田村さんが見学にいらっしやいました。

当日は曇り空で暑さも和らぎ、まずまずの移動運用日和でした。参加の各局長さんは、それぞれ思い思いに無線設備をセットアップして移動運用を楽しみました。

運用の終了は午後3時ごろを一応の目安としていましたが、昼過ぎになると黒い雲が湧き出し、雷も鳴り始めましたので、皆あわてて撤収に取り掛かるという事態になりました。なにはともあれ、雨が本降りになる前になんとか撤収を終えられ、落雷にあうこともなく一安心した次第です。そういうことで、今回は予定を繰り上げてそのまま解散となりました。

移動運用は、準備が少々面倒だったり、予期せぬハプニングが起きたりということがありますが、そういったことも含めて楽しいと思わせてくれるものだという気がします。次回はもっとたくさんのメンバーで移動運用ができれば幸いです。



JA7KTX 局長はキャンピングカーで運用



JH7RVR 局長は自作アンテナで運用、手前は田村さん

平成30年9～12月の活動予定

期日・曜日	事業名	会場
H30. 9. 5 (水)	定例会	中田農村環境改善センター
H30. 10. 5 (金)	オンエアミーティング (定例会なし)	-----
H30. 11. 3 (土)	親睦会 (インドア移動定例会)	未定
H30. 12. 5 (水)	定例会及び役員会 (次年度総会等について)	中田農村環境改善センター
H30. 12. 15 (土)	オンエアミーティング	-----

- ※ 今後の定例会は9月5日（水）と12月5日（水）の2回のみです。
10月は定例会の代わりにオンエアミーティングとなっていますので、お間違えないようお願いいたします。（オンエアミーティングは20:00～、145.32MHz FMで）
また、11月は親睦会が定例会を兼ねます。
- ※ H30.9.2（日）に「JARL 宮城県支部ハムの集い」が名取市民体育館で開催されます。
詳細は同封しました「JARL 宮城県支部だより」をご覧ください。

無線局免許証票の廃止等について

これまで、無線機には免許証票を貼付しなければなりませんでした。今年の3月1日からはその必要がなくなりました。詳しくは下記にてご確認下さい。



The screenshot shows the homepage of the Radio Use Web Site. At the top, there is a navigation bar with the following items: HOME | 電波監理の概要 | 電波利用に関する制度 | ご案内/資料集 | 最新. Below the navigation bar, the main heading reads '無線局免許証票の廃止等の規制緩和等のお知らせ'. The page content includes a paragraph explaining the changes and a list of five key points.

総務省では、無線局の免許申請手続等に係る規制緩和等を図るため、電波法施行規則等の一部を改正する省令案を平成29年12月13日の電波監理審議会に諮問し、その結果を踏まえ、平成30年2月1日に電波法施行規則等の一部を改正する省令等を公布しました。

関連報道資料：http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01kiban09_02000246.html

今回の改正の内容は、免許証票の廃止や免許状掲示義務の一部廃止等以下のとおりとなります。平成30年3月1日の施行となりますので、ご注意をお願いします。

1 免許証票の廃止（電波法施行規則第38条第3項）

免許証票については、無線局の送信装置のある場所に免許状を備え付けることが難しいアマチュア局を含む陸上移動局等が、「免許を有していること」を明らかにするため、免許状の代わりに備え付けることを求めてきた経緯にあります。総合無線局監理システムにおける無線局データベースの充実等を踏まえ、免許状や無線局事項書等の備え付け書類による無線局管理でも支障がなく、かつ、規制緩和の観点も考慮し、平成30年3月1日をもって廃止します。

なお、現在、送信装置へ貼り付け（備え付け）している免許証票については、施行後においても、そのまま貼り続けていても問題はありません。

2 免許状掲示義務の一部廃止（電波法施行規則第38条第2項）

免許状は、これまで、主たる送信装置のある場所に掲示することを義務としていましたが、無線局に備え付けておくことでも支障がないことから、免許状を掲示する義務を、平成30年3月1日をもって廃止します。

なお、船舶局、無線航行移動局及び船舶地球局の免許状については、従来どおり、掲示することを義務としています。また、アマチュア局の免許状についても従来どおり、無線設備の常置場所への備え付けとしています。

3 無線業務日誌の電子化（交信内容の音声による電磁的記録を可能とする）（電波法施行規則第43条の6）

無線業務日誌の記録が義務化されている船舶局、海岸局、航空局及び航空機局の交信内容等について、平成30年3月1日より音声による記録（録音）を可能とするものです。

4 電磁的方法により記録することができる提出書類等（FD申請）の廃止（電波法施行規則第52条の2、無線局免許手続規則第32条、無線従事者規則第97条、登録検査等事業者等規則第24条、電波の利用状況の調査等に関する省令第9条）

フロッピーディスク（FD）自体の生産終了等の現状を踏まえ、FD申請を平成30年3月1日をもって廃止します。

5 無線設備の設置場所の変更検査を受けることを要しないアマチュア局の無線設備の拡大（昭和58年郵政省告示第532号）

現に免許を受けている空中線電力200ワット以下のアマチュア局の設置場所を変更する際、保証を受けた場合は、変更検査を受けることを要しないとしていましたが、空中線電力200ワット以下の無線設備で適合表示無線設備のみで構成されているアマチュア局の設置場所を変更する際も変更検査を要しないものとして、平成30年3月1日付けで当該告示を改正します。

新型リチウム電池について

東北大学が開発したリチウム電池の生産について、河北新報 ONLINE NEWS から紹介します。私たちの日常生活やハムライフに恩恵があるといいですね。今後の動向に注目です。

情報源：https://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201807/20180713_12003.html

＜石巻・IDF＞東北大開発のリチウム電池 来年量産へ 閉校した小学校を工場に改修

自動車用シートカバーなど製造のIDF（石巻市）は、東北大未来科学技術共同研究センター（NICHe）が開発したリチウムイオン電池の量産に乗り出す。広く使われている三元系の材料に代わり、マンガン系を利用して発火の危険性や生産コストを低減。石巻市内の閉校した小学校を工場に改修し、来年に生産を開始する。



IDFが量産するマンガン系のリチウムイオン電池

コバルトやニッケルを使う三元系のリチウムイオン電池は容量が大きく高性能だが、異常発熱し発火する危険性があった。マンガン系は容量で劣るが開発から約20年にわたり発火事故がなく、安全性が高いという。

従来のリチウムイオン電池は湿気を嫌うため、工場にドライルームなど大規模投資が必要だった。湿気に強いマンガン系に着目したNICHeはさらに安全面などの観点から素材改良を進め、ドライルームなしで製造できるようにした。

NICHeの白方雅人特任教授は「ドライルームが不要になって初期投資が10分の1になり、億単位の年間電気代が減った。安全性が高まり、資金やノウハウのない中小企業でも製造できる」と話す。

新たなリチウムイオン電池は、東北大発ベンチャーの未来エナジーラボ（仙台市）がみやぎ復興パーク（多賀城市）に設けた製造ラインで試験生産中。IDFに技術移管する形になる。

IDFは石巻市から校舎などを購入し次第、改修工事に着手する。費用は約15億円で、国の補助金などを活用する。フル稼働時は容量毎時100ワット級の電池を年40万個生産。ピーク時の雇用は約50人と想定し、当面は年間売上高25億円を目指す。

主な需要は家庭や小規模病院向けの非常用電源、太陽光発電装置と組み合わせた蓄電式の街路灯、通信用のバックアップ電源などを見込む。

NICHeの長谷川史彦センター長は「大手電池メーカーは自動車や携帯電話向けの大容量化が開発の主流。IDFは既存市場からこぼれた容量の小さい電池を用途に合わせて多品種製造し、新たな市場を切り開くのが狙いだ」と明かす。

IDF社長の山本憲一石巻専修大教授は「仙台、石巻両地域で一貫生産し電池の地産地消を進める。宮城県発の電池として全国、世界に発信したい」と意気込む。

今、世界中のHAMがFT8というデジタルモードの交信に夢中です。送受信はPCで行います。ほぼ自動です。微弱信号のデータ通信から派生したモードですが、基本的には弱肉強食の世界であり、現状ではQRPで楽しむのは難しそうです。QRP運用の私はCWやるしかない？

Let's enjoy "Ham life" Aki

事務局 三浦明彦（JA7IUX）
〒987-0602 中田町上沼字大泉門畑 55-1
ホームページ：<http://www.jarl.com/tome/>
E-mail：ja7iux@jarl.com
TEL：0220-34-4986